

新しい左京区基本計画づくり



ニュースレター第14号

発行日 平成23年2月7日
発行者 左京区役所区民部総務課
Tel 771-4235

左京区の未来をつくる区民会議を開催しました。

1月12日にアピカルイン京都において、左京区基本計画（第2期）最終案の検討と計画愛称の決定を行うため、左京区の未来をつくる区民会議（第4回「左京区住民円卓会議」、第8回「次代の左京まちづくり会議」の合同会議）を開催しました。

会議では、まず、次代の左京まちづくり会議の宗田座長と深町副座長から、これまでの計画策定の取組等について振り返っていただきました。その後、事務局から計画最終案の概要について説明し、グループ毎に計画案について意見交換を行いました。

また、昨年11月に募集した計画の愛称候補の中から、委員の皆様の投票により計画の愛称を決定しました。

宗田座長、深町副座長から計画策定についてお話しいただきました。

【宗田座長から】

- 左京区には広大な森林地域があるが、今後過疎高齢化により森林の荒廃が進み、鳥獣等の被害も増え、問題が一層深刻化することも予想される。こうした状況を踏まえ、新しい計画では、目標その1に「美しい自然のまちづくり」を掲げ、単に自然を愛でるだけでなく地球環境に配慮しつつ、エコライフをどう実践するかに重点を置いている。
- 左京区の人口は現在約16万6千人だが、一人暮らし世帯が47%を占めている。単身の学生も多いが、最近は一人暮らしの高齢者が増えており、地域のまちづくりへの参加が大きな課題である。また、近年は左京区でも市中心部と同様にマンション世帯が増えており、マンション住民と地域住民の交流をいかに進めていくかも重要である。
- こうした中、この先10年間で地域の中での付き合いを再度見直すため、目標3に「人にやさしいぬくもりのまちづくり」を掲げ、「すべての人が互いに認め合い、支え合う温かいところを持つ左京」という10年後のすがたを打ち出している。
- 今後、地域活動を広げていく際には、歴史、文化、学問とともに、この恵まれた自然、特に北部地域の豊かな自然を愛で、守り育てて、その自然との関係を考えることをふんだんに生かしながら、左京らしい住民参加のまちづくりを目指していきたいというのが、新しい計画に込められた思いである。

【深町副座長から】

- 新しい計画については、左京区全体の特徴を踏まえたうえで、自然や文化、住んでいる人たちの心をうまく生かすような形でまとめられていると思う。
- 左京区の北部と南部の交流を更に進め、できるだけ近くにあるものを生かしながら生活をするのが、左京区全体の豊かさにつながると思う。
- 計画の「目指すところ」である「自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ「豊かなところ」を大切に伝えます」にある「豊かなところ」について話し合い、実際の行動につなげていけたら左京区はもっとすばらしくなると思う。
- 大きな方針となる計画ができたので、これからは、身近な人と交流し、取組の輪を広げ、この計画の内容が実際のものとなるように皆さんと協力していきたい。

各グループで意見交換を行いました。

南部グループ（川東・吉田・岡崎・聖護院・錦林東山・浄楽・新洞）の主な意見

- 左京区は区域が広く、様々な住民が暮らしているので、区全体で将来像を共有し、自分たちができる取組から始めていくことが大切である。
- 計画の実現に向けては、地域別に年度毎の目標を決めて取り組む必要があると思う。
- 鴨川の美化に関する課題として、観光客によるごみの問題などがよくあげられるが、犬を散歩する飼い主がマナーを守るなど、住民が再認識することも必要である。
- 鴨川は左京区だけでなく京都全体のシンボルとして、美しくしていきたい。
- 高齢化によってひとり暮らしの老人が増加している。更に学生も多く、国勢調査の時などは困ることも多い。これからは地域のきずなを深めることが課題である。
- 個人情報尊重の中で、連絡網の電話番号記載に協力しない家庭もあり、一つのことを決めるのにも相当の時間がかかる。
- 本当に地域のことを考えるのであれば、個人情報も含め、行政側がもっと情報を開示してもよいのではないかと思う。
- マンション住民に地域活動に参加してもらうための仕組みが必要だと思うが、地域だけではなかなか解決できない部分もあるので、行政にも支援してほしい。
- 学校教育の現場でも個人を重視する傾向が強く、子どもがみんなだまって何かすることが少ないように思う。



中部南グループ（北白川・養正・養徳・下鴨・葵・修学院・修学院第二）の主な意見

- 地域の公園に花を植えたり、清掃したりする人が少なくなり、公園を利用する人も減りつつあるので、時代に合わせて利用方法を考える必要があるのではないか。
- 公園で犬を散歩する人が多いが、ふんの始末しないなどマナーの悪い飼い主がいる。
- 自治会がしっかりしている地域では、新しい住民も公園等の清掃に参加しているが、自治会がない地域などでは、担い手が不足している。
- ボランティアで公園清掃を行う人がいるが、その人たちがやめた後が心配である。そのため、ボランティアの意見を聞いて今後のことを考える必要があるのではないか。
- 地域活動の中心が老人会であるなど、元気な高齢者が増加している。一方で、自宅に閉じこもりがちの高齢者も増えている。
- 私立小学校への進学が増え、地域での子ども中心の交流ができなくなっている。
- 地藏盆などの地域活動のための出費を嫌う傾向もある。



- 北大路通などの街路樹で、根元のスペースを貸し出すサポーター制度を活用するなど、住民の力を利用して街路樹を美しくしてはどうか。
- 公園に貸しスペースを設け、希望する住民に花を植えてもらう取組を進めてはどうか。
- 地域の人、特に女性を引き込むために、園芸クラブを作り、老人会、女性会、PTAを巻き込んで、地域の交流につなげてはどうか。

中部北グループ（上高野・松ヶ崎・岩倉北・岩倉明德・岩倉南）の主な意見



- 基本計画案については、うまくまとまっており、よくできていると思う。
- 計画の中では、特に自然との共生が非常に大事であると思う。
- 計画にある「豊かなところ」を未来に伝えていくことが重要である。
- 最近、住民が地域から離れているように感じる。住民がもっと関心をもって地域活動に参加できるようにならないといけない。
- 岩倉は非常に人口も増えてきているので、人口データ等についても岩倉北、岩倉明德、岩倉南の3学区に分ける必要があると思う。
- 道路整備などについては、左京区全体の課題として考えられるので、都市部とその他地域を分けて表現する必要はないと考える。
- 岩倉の観光振興を図っていくためには、道路や駐車場等の整備についてもっと具体的に考えていく必要があるのではないかと。
- 新しいマンションにお住まいの方と地域との調和が大切なので、計画に「きずな」や「つながり」といった文言があってもいいのではないかと。
- 最近、活字離れが進んでいることから、冊子デザインとしては、絵や写真を多用する方がよいと思う。
- 完成した計画をたくさんの区民の方に見ていただくために取り組んでいただきたい。

北部グループ(花脊峠以南)（八瀬・大原・静原・市原野・鞍馬）の主な意見

- 地域の生産年齢人口を増やしていかないと、今後限界集落となることも危惧される状況にある。計画ではそうした課題についてもっと触れるべきである。
- 自然を守り育てていくためには、人口を増やす必要がある。そのためにも少子化対策、や定住化に向けた施策を打ち立てることが何よりも大切である。
- 北部地域を活性化していくためには、地域で生活できるようにすることが必要である。そのためにも、道路の整備は不可欠だと考える。
- 今後、地域で定住促進を進めていくためには、新旧の住民の間の溝を取り除くといったことも必要である。
- 都市近郊の地域でありながら、市街化調整区域であることにより、地域活性化に向けた開発がなかなかできないといった課題がある。
- 計画では自然保護について述べられているが、サルによる被害は、農業被害だけでなく、家を荒らすなどの生活被害にまで及ぶようになっており、自然を守るよりもこうした被害への対策を優先するべきではないかと。
- 地域活性化のためには、定住促進とともに、南部地域と交流を深める手立ても必要である。
- 子ども、高齢者、障害者といった観点も重要ではあるが、一般区民の暮らしといった観点をもっと考慮するべきではないかと。



北部グループ(花脊峠以北)(花脊・別所・広河原・久多)の主な意見

- 計画に北部地域の課題等についても積極的に盛り込まれていることに感謝している。
- 計画を読むとすばらしい未来像が見えるが、実際にこれから計画内容を実現していくことが本当に大切である。
- 新しい計画では、自然を愛で、守り育てることが大きな目標となっているが、自然を守っていくためには、住む人がいることが必要不可欠である。自然を守るためにも、定住化に向けた具体的な取組が必要である。
- 定住とともに、南北の交流を進めるためにも、道路整備を進めてほしい。
- 道路整備については、何とか予算の問題をクリアして整備を進める必要がある。
- 山林の荒廃が進むと人が住めなくなるので、倒木などの危険林の対策も重要である。
- 今回の計画は、10年を計画期間としているが、人口減少の著しい北部地域では、5年後に大きな転換期を迎えると思われる。そのため、まずは5年後を見据えて、次世代の人が北部を守るようにしていきたい。
- 現在、北部地域を支えている人の大半が高齢者なので、5年後、10年後が大変心配である。なんとか若い人が地域に戻ってほしい。
- 地域で、伝統行事のビデオを作ったので、これを活用して地域活性化を進めていきたい。
- 「できる人が、できる事を、できる時に」を基本にまちづくりを進めていきたい。



計画愛称は「左京はあとふるプラン」に決定しました。

昨年の11月に左京区基本計画(第2期)の愛称募集を実施しましたところ、22件の応募をいただきました。愛称の選考につきましては、まず、当日御出席の委員の皆様のご投票により22件の中から上位3案を選考しました。その後、3案を候補に決戦投票を行い、結果は以下のとおりとなりました。

応募いただきました皆様、本当にありがとうございました。

【選考結果】(応募者)

- 1位 (優秀賞) 左京はあとふるプラン (山科区 男性)
- 2位 (佳作) 都市と山村, 笑顔でつなぐ歴史のまち左京プラン2020 (右京区 女性)
- 3位 (佳作) 左京夢プラン (左京区 女性)

「左京区基本計画(第2期)」の概要につきましては、 左京ボイス3月15日号はさみ込みでお知らせします。

今後は、会議での御意見等を踏まえ、左京区基本計画(第2期)を策定し、3月に計画冊子を発行します。また、計画の概要につきましては、左京ボイス3月15日号のはさみ込みで区民の皆様にお知らせして参ります。

なお、左京区役所では、新しい基本計画策定の取組等について皆様に広く知っていただくため、平成20年度からニュースレターを作成して参りましたが、今回の第14号が最終号となります。ありがとうございました。